書　評・紹　介

若林敬子編著，筒井紀美訳
『中国　人口問題のいま―中国人研究者の視点から―』

ミネルヴァ書房，2006年９月，369pp.

本書は，中国人口について多くの著作がある若林敬子氏が，中国が直面する最近の人口問題について各分野で著名な14人の中国人口学者に依頼，編纂し，筒井紀美氏が翻訳したものである．人口をめぐるさまざまな状況が知られ興味深い．本書は，編者の序章に始まり，人口や環境問題（第１章，第２章），人口政策（第３章，第４章），出生率に関する研究（第５章），配偶関係と女性の地位（第６章），都市化，労働力と社会階層（第７章から第10章），高齢化と社会保障（第11章から第13章）と少数民族（第14章）の14章から構成される．さらに各著者のプロフィールと編者との研究交流もあわせて紹介され，編者の中国人口研究に対する造詣の深さを伺い知られる．

中国は一人っ子政策に代表される一連の政府主導の人口抑制政策が実り，1990年代の初め頃から人口置き換え水準を割る低出生率を達成した．田雪原氏等の推計によると，中国人口は2030年に14.65億人に達し，ゼロ成長を実現するそうである．国連の2004年中位推計によると2030年には人口世界１位の座をインドに明け渡すと推測されている．年齢構成の上では，「人口ボーナス」期にあり，中国の高い経済成長を支えているが，今後は日本同様に高齢化が急速に進み，田雪原氏は「未富先老」（豊かになる前に高齢化が進む）となる状況を憂慮している（第１章）．中国は既に低出生率（2000年の合計特殊出生率：人口センサスの公表値1.23，研究者等の推計値1.5～1.8）を達成しているが，地域の事情に合わせ一人っ子政策を微調整することを検討しているようである．人口センサスの調査漏れは常に問題視されているが，2000年にも1.8％の高い調査漏れ人口が存在していた．さらに登録人口は2000年センサス人口より2246万人少ないそうである（第５章）．計画出産政策は，人々に受け入れられているが，希望子供数は，政府が認める数より，なお0.3～0.5人多いことが今後の課題と国家人口・計画出産委員会政策法規の責任者の干学軍が述べている（第３章）．中国のリプロヘルスは，「生殖健康」と理解されており，家族計画，女性の権利と母子保健の３つの面から構成されるが，これ等を総合的に計画出産政策に取り込み，これまでの家族計画実施者の数に重点を置いた方法から，不妊手術などの技能水準の向上とサービスに力を注ぐとしている（第４章）．第８章から10章は都市の労働力と社会構造に関する論文で，市場経済化の下，大きな変化がおきている状況が興味深く描かれている．第14章では民族間の交流が増え，少数民族の居住地が代々住んでいた居住地から他の地域に拡散している状況が示される．以上，本書には多彩なテーマが含まれるが，死亡に関する論文が取り上げられていないのは残念である．乳幼児死亡率，妊産婦死亡率，死因構造や最近 UNAIDS で増加が指摘されている HIV／エイズの状況など，これらはリプロヘルスと密接な関連があり，いずれも重要な問題である．本書は14章が翻訳論文であるが，原論文の中国語のタイトルが示されていず，執筆時期が明記されていない．また論文中に数箇所「現在の出生率」という表現があるが，年次を明記することが望ましい．最後に，中国人口問題に関する最新の状況を日本語で出版，企画された編者の努力に敬意を表したい．

早瀬保子（元日本貿易振興機構アジア経済研究所）